「GLOBAL TUBERCULOSIS REPORT 2022」について
～COVID-19パンデミックの影響により，結核による死者は2年連続で増加～

結核予防会
国際部　菅本 鉄広

昨年10月にWHO世界保健機関より世界結核レポート2022（GLOBAL TUBERCULOSIS REPORT 2022）が公表されました。この報告書の目的は，前年の結核流行状況および結核に対する世界的な取り組みと進捗を世界・地域・国レベルで包括的かつ最新の評価に基づいて示すことです。

はじめに，国連とWHOの全加盟国は2030年までに「世界の結核の流行に終止符を打つ」と誓約しました。また，2014年に採択されたWHO End TB Strategy（結核終息戦略）には，この誓約における具体的なマイルストーン（目標達成のための中間地点）と目標が盛り込まれ，さらに2018年の結核に関する初の国連ハイレベル会合でもこの誓約が政治宣言に含まれるなど，結核の終息に向けて世界が足並みを揃えて邁進していた矢先，COVID-19が世界を席巻したのです。

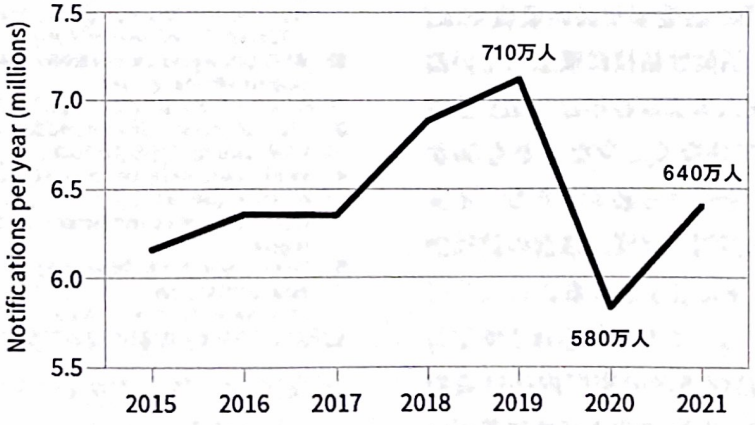
報告書は，「今や結核対策の進展は2019年を境に逆戻りし，結核終息に向けた世界目標を達成する軌道上から外れている」と述べています。つまり，COVID-19パンデミックが，結核診断や治療へのアクセス，国が抱える結核負担に深刻な負の影響を与えていることを示しています。

WHO事務局長のテドロス博士は報告書の中で，「COVID-19のパンデミックから何かを学んだとすれば，それは，連帯感，決意，イノベーション，ツールの公平な利用によって，深刻な健康上の脅威を克服できるということです。この教訓を結核に生かそうではありませんか。今こそ，この長年の殺人鬼に終止符を打つ時なのです。力をあわせれば結核を終わらせることができるのです。」との声明を発表しました。

結核の新規登録状況

COVID-19による結核対策への最も明白な影響は，2020年と2021年の両方で新たに結核と診断された人々の報告数（新規登録結核患者数）が大幅に減少したこと，すなわち未診断・未治療の結核患者の数が増加していることが示唆されたことです。新規登録結核患者数は2019年の710万人から2020年には580万人に

2015～2021年における
世界の新規登録結核患者数の推移



出展：GLOBAL TUBERCULOSIS REPORT 2022

減少し，2021年には640万人へと部分的に回復しましたが，それでもパンデミック前の水準を大きく下回っています。その減少の大部分をインド（41%），インドネシア（14%），フィリピン（12%）の3カ国が占めており，世界全体の67%にも上ります。また，前年比で大きな減少（20%以上）を示したのは，バングラデシュ（2020年），レソト（2020年と2021年），ミャンマー（2020年と2021年），モンゴル（2021年），ベトナム（2021年）でした。

結核による死亡状況

COVID-19による最も深刻な結果は，結核による死亡数（推定値）の増加です。2019年は140万人，2020年は150 万人，2021年は160万人と2年連続で増加しています。また，2021年の結核を原因とする死者数は，HIV/AIDSが原因の死者数（約65万人）の2倍以上と推定されており，近い将来，結核がCOVID-19に代わり，再び単一感染症による死因の第一位となる可能性が危惧されています。このような状況下で，COVID-19パンデミックによる結核対策への悪影響を緩和し，対策を軌道に乗せるためには，資金増に裏付けられた結核サービス提供や研究開発の強化が緊急的に必要と明記されています。

結核の発生状況

2021年に結核を発症した人は約1,060万人と推定され，この数は2020年の1,010万人から4.5%増加しています。結核罹患率（人口10万人当たりの年間新規患者数）は，20年にわたり年間マイナス2%で推移していましたが，2020年から2021年にかけてプラス3.6%へと転じ，これはコロナ禍での結核サービスの中断による影響を受けたことが推察されています。2015年から2021年までの結核罹患率の累積減少は10%であり，この数値は結核終息戦略の最初のマイルストーンの半分に留まっています。

薬剤耐性結核の状況

世界の薬剤耐性結核患者は2020年に比べて増加し，2021年にはリファンピシン耐性結核患者（RR-TB）が新たに45万人発生しました。加えて，コロナ禍の悪影響として，薬剤耐性結核の治療が提供された患者数は，2019年から2020年にかけて17%減少しました。2021年の報告によれば，RR-TBの治療を開始できた人数は161,746人で，これは治療を必要としている人の約3人に1人にすぎません。

結核の必須サービスに対する資金援助

結核の疾病負担を軽減するためには，結核の診断・治療・予防のための十分な資金を長年に渡って継続的に提供する必要があります。しかし，報告書では必須結核サービスに対する世界の拠出額が2019年の60億米ドルから2021年には54億米ドルに減少し，この額は2022年までに年間130億米ドルという世界目標の半分に満たないことを指摘しています。これは，COVID-19パンデミックに関連して，結核と診断された患者の減少，結核サービス提供モデルの変更（医療施設への訪問者の減少や遠隔治療への依存），さらにCOVID-19対応への資源の再分配などが要因として挙げられています。低・中所得国での結核対策には，国際的なドナーからの資金が依然として重要です。事実，2010年以降は低・中所得国に対し年間約10億米ドルが提供されており，その主な財源は世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）となっています。

結核による壊滅的な経済負担

報告書では所得と結核感染との間に強い関連性があることも指摘されています。結核患者とその世帯の約半数は壊滅的な経済負担に直面しており，診断や治療にかかる医療へのアクセスに影響を及ぼしています。これらを軽減するためには，UHC（Universal Health

Coverage）の推進，社会的保護の向上，部門横断的な活動などが不可欠であると述べています。

小さな成功事例

このように，コロナ禍の影響による結核対策の停滞が指摘されている中，報告書には，次のような結核対策の成功事例も紹介されています。

▷世界的に見ると，2020年に結核治療を受けた人の成功率は86％でした。これは2019年と同じレベルであり，COVID-19パンデミックにおいても結核治療の質が維持されたことを示唆しています。

▷WHOアフリカ地域では，新規登録結核患者数におけるCOVID-19の影響は限定的でした。2019年から2020年にかけて比較的小さな減少（マイナス2.3%）でしたが，2021年には増加しています。

▷バングラデシュ，コンゴ民主共和国，パキスタン，シエラレオネ，ウガンダの5つの結核高負担国において，2020年に新規登録結核患者数は大きく落ち込みましたが，2021年には2019年のレベル（またはそれ以上）まで回復しました。

▷結核の予防的治療が提供された世界の人数は，2019年の水準に近いところまで回復しました。また，過去4年間のHIV感染者への治療提供は，世界目標を上回りました。

▷ケニア，タンザニア，ザンビアの3つの結核高負担国は，結核罹患率と結核死亡数の両方において，2015年と比較して減少するという2020年のマイルストーンに到達，またはそれを超えています。エチオピアは到達にはあとわずかでした。

最優先事項

コロナ禍の影響による結核対策の停滞を受け，報告書では結核サービスへのアクセスを回復するための緊急措置を講じるよう，改めて各国に求めています。これは，ウクライナでの戦争，世界の他地域で進行中の紛争，世界的なエネルギー危機や食料安全保障に関するリスクが，結核状況をさらに悪化させる可能性を孕んでいるためです。また，結核対策にかかる資金の増加，部門横断的にわたる活動，新しい診断法・結核薬・ワクチン開発の必要性も呼びかけています。

WHOの世界結核プログラム責任者であるテレザ・カサエバ博士は，報告書の中で「この報告書は重要かつ新しいエビデンスを提供するとともに，結核の目標達成と人命を救うためには，皆による緊急の努力を倍加させることで結核対策を軌道に乗せることを強く訴えています。2023年に予定されている第2回結核に関する国連ハイレベル会合に備えて，この報告書は各国，国際社会のパートナー，市民社会にとって不可欠な資料となるでしょう。」とその意義を述べています。

最後に，国連ハイレベル会合では，各国首脳がCOVID-19パンデミックの教訓を生かし，結核の流行状況と対応ついて包括的に検討し，結核の終息目標に向けた強固なコミットメントと行動を新たに示すことが期待されています。

各国のデータはパソコンだけでなくスマートフォンの無料アプリ（TB Report, WHO）からでも手軽に閲覧できます。